

# Partner

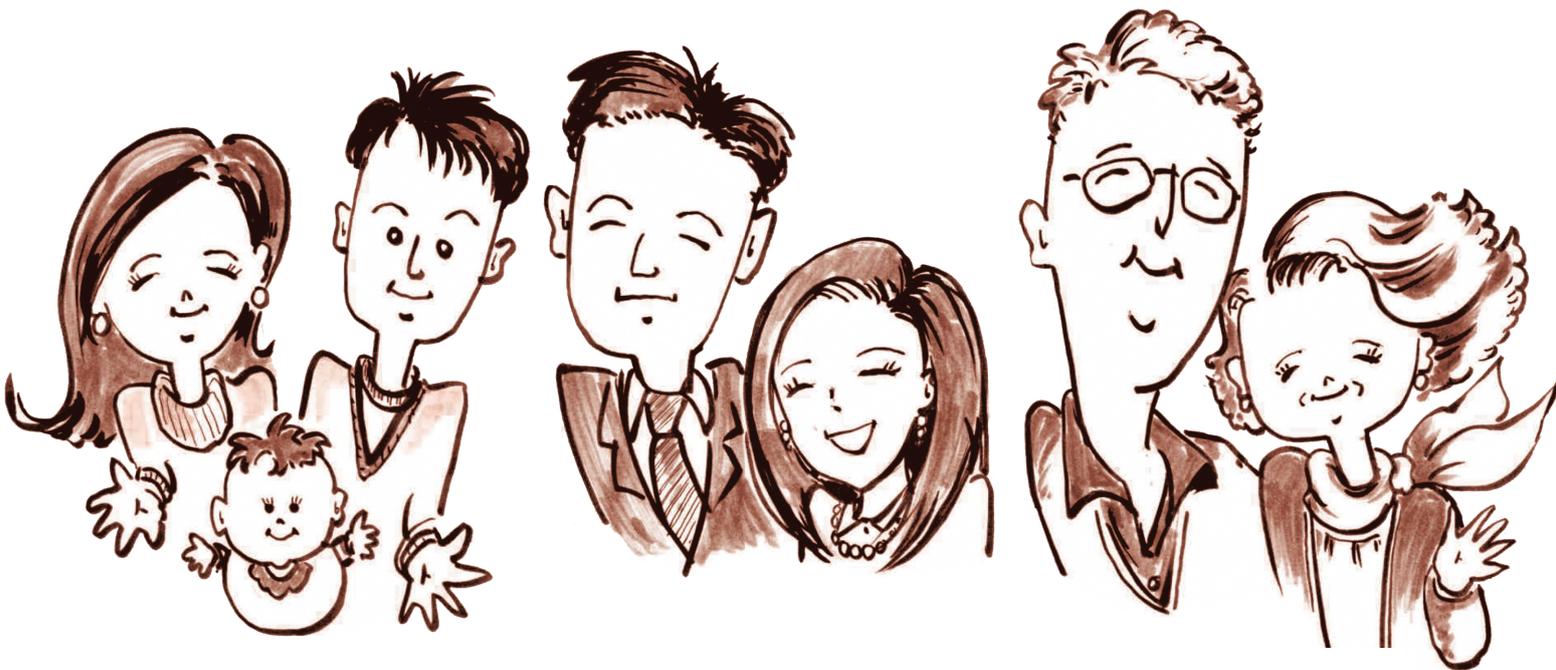
パートナー Vol. 61 2026.3 蕨市

パートナーとは…

すべての人が共に明るい地域社会を築き上げようという意味と、市民の皆さんと市が共に手をたずさえていこうという願いが込められています。

特集

## 夫婦間のアンコンシャス・バイアス ～30代50代70代夫婦に聞いてみた～



### アンコンシャス・バイアスとは…

「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」とは、「自分自身は気づいていないものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」を言い、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、自分自身では意識しづらく、「無意識の偏見」と呼ばれます。

P2-P4

特集 「夫婦間のアンコンシャス・バイアス～30代50代70代夫婦に聞いてみた～」

P5

「アンコンシャス・バイアス」チェックシート

P6

講演会レポート「女性の貧困～中高年シングル女性の実情から～」

P7

令和7年度男女共同参画「キャラクター」作品募集 結果発表

P8

インフォメーション ～ご相談ください～

30代 50代 70代 夫婦に聞いてみた

「無意識の偏見」と呼ばれるアンコンシヤス・バイアスですが、特に夫婦間で問題となり得る例として、主に次のようなものが挙げられます。

- ・共働きでも男性は仕事を優先して、女性は家事・育児を優先するべき
- ・男性が家計を支えるべき
- ・介護は女性がするべき 等

こうした性別に対するアンコンシヤス・バイアスの解消は、「蕨市男女共同参画パートナーシッププラン（第3次）」の目標「一人ひとりの人権を尊重する意識づくり」を進めるために重要とされる取り組みのひとつです。

今回は、3世代の夫婦へのインタビューから、性別に対するアンコンシヤス・バイアスを探っていきます。

～家事・育児 すべてふたりで～



蕨市錦町にお住まいの結婚5年のご夫婦。「ママ」「パパ」と呼び合っています。



30代 共働き世代  
リーマン・ショックによる世界金融危機!

～夫は家事・育児に「参加」～

蕨市中央にお住まいの結婚22年のご夫婦。お互い名前呼び合っています。



50代 就職氷河期世代  
「育児休業法」の制定 女性の社会進出を後押し!

～家事はすべて妻!～

蕨市中央にお住まいの結婚48年のご夫婦。「お母さん」「お父さん」と呼び合っています。



70代 団塊世代  
高度経済成長期 経済発展の原動力!

## Q1 家事はどのように分担していますか？

**30代** 種類や曜日で役割分担はしていません。それぞれが仕事と育児の合間に行っています。

**50代** **バイアスポイント** 掃除・洗濯・料理を妻が、ゴミ出し（たまに食器洗いや洗濯物たたみも）が夫です。

**バイアスポイント** はアンコンシャス・バイアスの可能性があるところの目印だよ。



**70代** **バイアスポイント** 家事はすべて妻。

## Q2 意見が食い違う時はどうしていますか？

共働きでも妻の方が家事の分量が多くなっているみたい！

**30代** 話し合いは特にせず、お互い無言で空気を読み始めます(笑)

**50代** その時の状況でどちらかが折れています。

**70代** そんなもんだと時間が解決してくれました(笑)

## Q3 結婚や出産後は、仕事と家庭のどちらを優先していましたか？

**30代** お互い仕事優先だったのですが、子どもが生まれてバランスを取るようになりました。

**50代** バランスを取っているつもりですが、どちらかと言うと夫は仕事、妻は家庭を優先しています。

専業主婦世帯よりも共働き世帯の方が多くなったのは、1990年代の半ばあたりなんだって！

**70代** 夫は仕事。妻は専業主婦なので家庭です。

## Q4 子育てで仕事を調整する必要がある時はどうしていますか？

**30代** それぞれ平等に調整しています。

**50代** **バイアスポイント** 調整できる方が休んでいましたが、結果的に妻が休むことが多かったです。親を頼ることもありました。

子どものために休みたかったお父さんもいたかもしれないね。

**70代** 専業主婦なので、夫が調整することはなかったですね。

女性の方が休みやすかったりしたのかな。

## Q5 どちらか、あるいはお二人とも育児休業は取りましたか？

**30代** 妻は取りましたが、夫は取りませんでした。ただ、部署によっては育児休業を取っている男性も増えていると感じます。

**50代** 妻のみ取りました。特に第3子の時は3歳まで育児休業を取り、おかげで3人の子どもとしっかり関わることが出来ました。

**バイアスポイント** 職場や部署によって対応が違うみたい。男性の育児休業取得への理解についてはまだまだ差がありそうだね。

**70代** 取っていません。そもそも制度自体なかったんじゃないかな(笑)

育児休業法は1992年に施行されたよ。意外と最近！

## Q6 子どもの教育で 男の子と女の子の違いを意識しましたか？

30代

意識はしていませんが、そもそも男の子と女の子で成長や関心に違いがあるように感じます。

50代

学業に関してはしませんでした。女の子には特に夜道などで防犯意識を持つよう言っていました。

バイアスポイント

70代

男の子は四年制大学にいかせてあげたいが、女の子は短大でもいいと思っていた。習い事は男の子には運動、女の子にはピアノ、という思いがあった。

バイアスポイント

性別役割分業の意識が高かったから男の子への期待が大きかったんだね。



インタビューの回答には、性別に対するアンコンシャス・バイアスの可能性がある箇所（バイアスポイント）が複数ありました。このバイアスポイント部分で、「男が育児を取るなんておかしい」「家事は女の仕事」「男はたくましくあるべき」といった偏見がもたれて発言されている場合、アンコンシャス・バイアスの影響によって選択肢が狭まっている状態といえます。こうした状態を防ぐためにアンコンシャス・バイアスの解消が必要です。

3組の中では70代、50代、30代の順にバイアスポイントが多く見られました。各世代の社会情勢と照らし合わせて考えると、各夫婦がその時代背景に合わせて支えあった結果であることがわかりました。

現代の情勢が未来の固定観念に繋がり、新たなバイアスを生んでいかなないように、一つひとつの判断を柔軟に行っていくことが大切です。

3組のご夫婦のみなさま、貴重なお話をありがとうございました。

### 蕨市民の意識は？

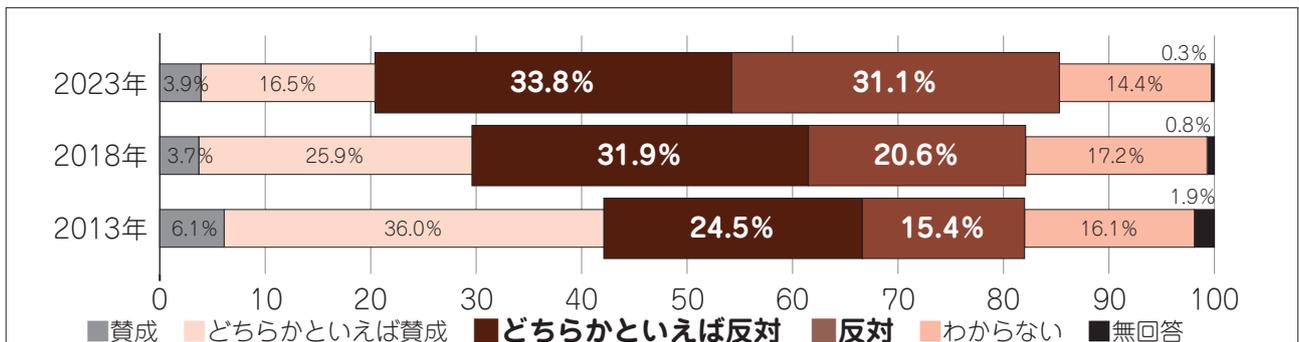
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という固定的役割分担意識の考え方について、蕨市民の意識はどのようか、蕨市男女共同参画市民意識調査の結果をもとに10年間の推移を見てみましょう。（下記グラフ参考）

「夫は外で働き、妻は家庭を守る」ことに「反対（どちらかといえば反対を含む）」と答えた割合は、2013年度調査では39.9%、2018年度調査では52.5%、最新の調査結果である2023年度調査では64.9%となり、2013年と2023年は25ポイントの差が生まれました。

このことから、蕨市民の意識が10年の間で大きく変化し、性別を問わず個人の希望に応じたキャリアや生き方を尊重する価値観が定着しつつあることがわかります。市ではこうした結果を尊重し、今後も引き続き、誰もが自分らしく活躍できる「男女共同参画社会」の実現に向けた施策を行っています。

#### ■「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的役割分担意識についての考え

(蕨市男女共同参画市民意識調査より)



# 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス） チェックシート

～自分の「思い込み」に気づいてみよう～



あなたはどうか？  
チェックしてみよう！

## 1. 性格・人間性について

- 女性は感情的で男性は理性的だ
- 女性はおしとやかな方が良い
- 男性は人前で泣かない方が良い

## 2. 仕事について

- 共働きでも男性は家庭より仕事を優先する方が良い
- お子さんのいる女性には重要な仕事を任せない方が良い
- 男性をリーダーに置き、女性がサポートに回る方が良い

## 3. 家庭について

- 家事・育児は女性がした方が良い
- 家や車の購入などの大きな決断は男性がする方が良い
- 実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がする方が良い

## 4. 生活について

- デートでかかる費用は男性が支払う方が良い
- 力仕事は男性が行う方が良い
- 客へのお茶出しは女性が行う方が良い

上記は、性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）といえる事柄です。アンコンシャス・バイアス自体は誰にでもあるものなので、「あること」＝「悪いこと」ではありません。しかし、それによって誰かを傷つけてしまったり、あなたの可能性を狭めてしまうことがあります。あなたの中のアンコンシャス・バイアスに気が付くことで、人とのかかわり方や、あなた自身の選択に少しの変化が起こるかもしれません。このチェックシートが気付きのきっかけになると幸いです。

## 講演会レポート

# 「女性の貧困〜中高年シングル女性の実情から〜」

## を受講しました！

令和7年7月26日、「With You さいたま」で開催された、

大矢さよ子さんの講演会「女性の貧困〜中高年シングル女性の実情から〜」に参加しました。

講師の大矢さんは、民間会社で働きながら長女を出産し、仕事と子育てを両立させていましたが、次女の妊娠を機に退職し専業主婦に。その後、40代で離婚することとなり、子ども2人を育てるシングルマザーとなりました。やがて母子家庭団体の理事などを経験し、2015年にはご自身で中高年シングル女性の集まり「わくわくシニアシングلز」を設立し、現在まで代表を務められています。

大矢さんがこのような活動に切り続けるモチベーションは、大矢さんご自身がシングル女性として生きてこられた経験から生まれているそうです。

### ◆貧困当事者の切実な声

大矢さんたちは、これまであまり知られることのなかった中年期から高齢期のシングルの女性たちの労働や暮らしの実態を把握し、発信していきこうと2016年にアンケート調査を実施しました。

わくわくシニアシングلزの書籍『シニアシングلز 女たちの知恵と縁』のはじめには、当事者の女性たちの「こんなに働いてきたのに年金では生活できない」「今も非正規で賃金が低すぎる」「老後どうやって生き延びればいいのか」「病気になったらアウト」など、今を、老後を、どう生き抜くのかという切実な声が紹介されています。

講演では、このアンケートから見える女性たちの厳しい現実をグラフや表にして説明がありました。

### ◆単身高齢者の実情

その中でも、65歳以上の単身女性高齢者については「2人にひとりには貧困(勤労世代の単身女性であっても3人にひとり貧困)※」という実情をお話いただきました。

このように女性単身高齢者が貧困に陥るわけには、雇用環境、年金制度等、日本の社会保険制度が関係しているとのことでした。終身雇用の男性労働者と専業主婦と子ども、という性別役割分業の下で形作られた制度設計によって、非正規雇用で働かざるを得ないことが多い女性単身者の低年金問題などが引き起こされ、それが貧困に直結してしまうという現状があるそうです。こうした背景についても非常に考えさせられました。

### ◆講演を聞いて

「わくわくシニアシングلز」の「ひとり一人もつながれば、知恵と力と笑みがわく」というキャッチフレーズには、「女性同士がつながり声を上げていけばきっと何か動かせるはず」という思いが込められているそうです。「格差社会」といわれる現代は、誰も貧困に陥るリスクをはらんでいます。特に女性にとって過酷です。今回の講演で女性同士がつながって生まれる力で男女共同参画を推進していきたい、と改めて実感することができました。

執筆・パートナー編集委員 成田弘子



わくわくシニアシングلز代表  
講師 大矢 さよ子 さん



※内閣府男女共同参画局「平成22年版男女共同参画白書」より

# 「キャラクター」作品募集 結果発表

蕨市では、身近な暮らしの中から男女共同参画についての理解と関心を深めることを目的として「男女共同参画作品募集事業」を実施しています。

今年度は男女共同参画に関するさまざまな思いや願いをオリジナルのキャラクターとして表現していただき「男女共同参画キャラクター」を募集しました。今年度のテーマは「暴力をなくそう！」で、47作品のご応募をいただきました。ご応募ありがとうございました。



△蕨市役所にて表彰式が行われました。  
(令和7年12月18日)

## 最優秀賞 「パープルちゃん」



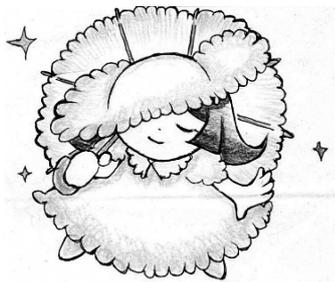
### キャラクターの特徴・設定

暴力がなくなることを祈りパープルリボンを羽に  
思いついた背景

パープルリボンの存在をもっと広く知ってもらい  
たいと思い天使の羽にしてみました。

## 優秀賞

「あまふわ」



関東図書株式会社賞

「もころん」



「『わらび』シスターズ」

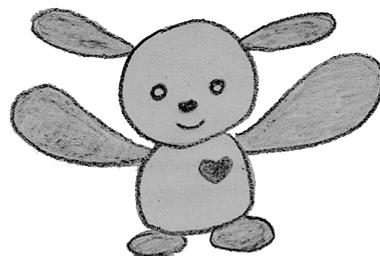


パルシステム埼玉賞

「ワラビーりんごちゃん」



「パープルン」



蕨市観光協会賞

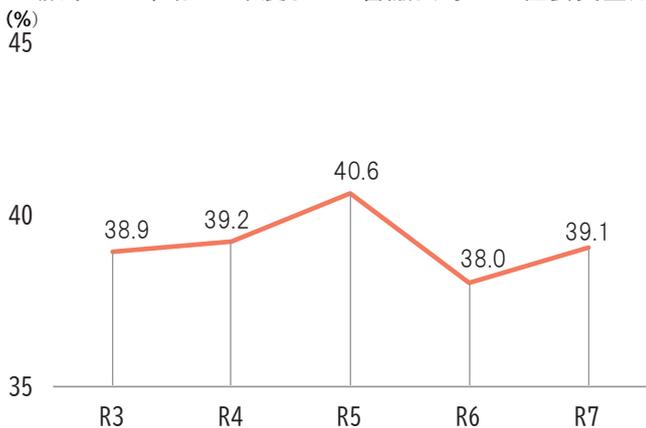
「びび」



# インフォメーション

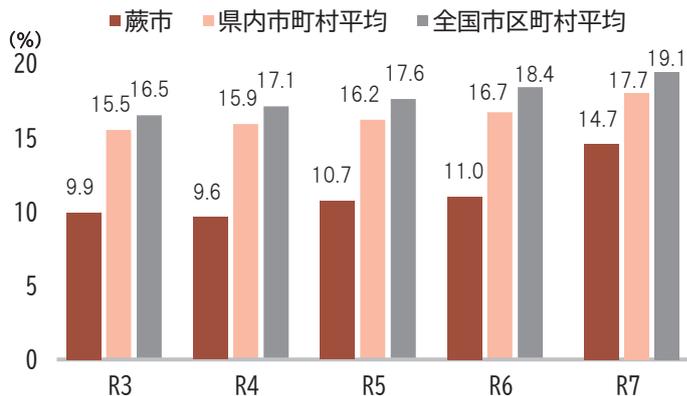
## ●女性活躍データ●

男女共同参画の進み具合を示す指標に審議会等の女性登用率と地方公共団体の女性管理職の割合があります。蕨市では令和15年度までに審議会等の女性委員登用率を45%とすることを目標としています。



審議会の女性委員の登用状況 (%)

※ここでいう審議会とは、地方自治法(第202の3)に基づき、法令・条例で設置されている審議会(附属機関)を指します。



地方公共団体の管理職に占める女性の割合 (%)

※ここでいう管理職とは課長及びこれに相当する職以上です。

## ご相談ください!

### DV相談

配偶者等からの暴力(DV)に関する相談のほか、被害者の自立や支援に必要な情報の提供や関係機関との連絡調整、援助等を行います。予約は不要です。

相談日時: 月～金曜日(祝日・年末年始を除く) 8:30～17:15  
※社会福祉士等の資格を持つ女性相談支援員在籍(火・木・金)。

蕨市配偶者暴力相談支援センター  
お問合せ 市民協働課 TEL048-433-7745

### 女性の心と生き方相談

女性カウンセラーがあなたの心の整理をお手伝いしながら、一緒に解決の糸口を探していきます。予約制です。

相談日: 第1・3・4金曜日  
時間: 午後1時～3時50分、1回50分  
※相談は無料です。※秘密は厳守いたします。

予約・お問合せ 市民協働課 TEL048-433-7745

### DV相談+(プラス)

「これってDV?」「暴力を振るわれている」「今すぐパートナーから逃げたい」「子どもたちのことも心配」など  
どんなご相談もお気軽にご連絡ください。

電話相談 0120-279-889(24時間受付)  
チャット相談(12:00～22:00)はDV相談+のホームページから行うことができます。(https://soudanplus.jp/)

### 男性のための電話相談

With Youさいたま相談では、男性臨床心理士による男性のための電話相談を実施しています。(1回20分程度)

相談日: 毎月第1・3日曜日(12月29日～1月3日を除く)  
時間: 午前11時～午後3時  
対象者: 埼玉県在住・在勤または在学の男性  
(性自認が男性の場合を含む)

相談はこちら TEL048-601-2175

### パートナー第61号

(2026年3月1日発行)

企画編集 パートナー編集委員会(蕨市民生活部市民協働課)

編集委員 貝沼知 加藤光男 杉山節子

土肥仁美 成田弘子

〒335-8501 蕨市中央5-14-15 電話 048-433-7745

Eメール siminsit@city.warabi.saitama.jp

### 編集後記

「今どきの若い人の考えていることは…」や「年を取ると、いくら言っても分かってほしいと頭から決めつける…」あなたにもこんな思いをした経験はありませんか?

私たちは育ってきた時代の価値観で物事を考えがちです。今回の特集には世代の違う市内在住の3組のご夫婦にご協力いただきました。インタビューを読むと、それぞれの社会状況が違くと、家事や子育てや仕事に対する考え方が大きく違うことが伝わってきます。今号の特集は自分の中にある「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」をまず自覚して、このような「世代間の垣根を、相手を否定せずお互いを理解しながら軽やかに乗り越えてみませんか」という提案です。チェックシートもぜひご活用ください。

編集委員 成田 弘子



蕨市男女共同啓発紙  
「パートナー」を読んだ  
感想をお聞かせください  
(令和8年4月30日まで)

パートナー編集委員募集中です。興味のある方は、  
ぜひ市民協働課までご連絡ください。